

「空振りを恐れず」

中津市長 奥塚 正典

我々にとってなくてはならない水、それが時として大洪水となって猛威を振るいます。7月の九州北部豪雨は、局地的にしかも強烈に福岡県と大分県を襲い大きな爪痕を残しました。昨今、自然の脅威は際限がないほどです。山国川をはじめ日本の川は急流で山間を蛇行しています。ここに大雨が降ると一挙に多量の水が押し寄せ流域に大きな被害を及ぼします。

災害時は何といても人命確保が第一です。ゲリラ豪雨あるいは数十年に一度規模の雨が来そうな時に大事なのは、危なく不安だと思われる所からいち早く逃げることです。これが一番現実的な安全策です。そのため市は避難所を開設し市民に避難を呼びかけます。気象庁や河川管理者とも連絡を密に取り、状況をできる限り掴んで、自主避難をはじめ避難勧告や避難指示を出す必要があります。難しいのは、そのタイミングを逃さないことです。

勧告や指示等を出した場合、次に心配なのは市民の皆さんが実際に避難してくれるかどうかということです。様々な手段でお知らせをしますが、「まあ大丈夫だろう」と考えられると進んで避難はしません。皆さんの危険度心理がどう働くかにかかってきます。今回の山国町の山腹崩壊では避難勧告により避難していただいていたことで難を逃れることができました。ぎりぎりのところで人的被害が防げたことに正直胸をなでおろしました。



市は、気象情報や水位情報などをもとに最悪の事態も考えて安全第一で対応を決めていきます。避難したけど、結果として何も起こらなかったということもあるかもしれませんが、その時は最悪を免れたと考えていただきたいと思います。

これからも「空振り覚悟、人命第一」のもと行動します。市民の皆様には避難誘導があれば是非ご協力願います。